

ブリ

生態的特徴等

【生態】

沿岸性の回遊魚で、東シナ海から北海道までの日本周辺域と朝鮮半島東岸に分布する。産卵は、東シナ海の陸棚縁辺部から、太平洋側では伊豆諸島以西、日本海側では能登半島以西で行われる。

稚魚（モジャコ）は流れ藻について生活し、初期には動物プランクトンを捕食し、全長約3cmで魚類を捕食し始め、13cm以上で完全な魚食性となる。その後の成長は、1歳で尾叉長37cm、2歳で53cm、3歳で67cm、4歳で78cm程度となる（図1）。寿命は7歳前後である。成長段階で異なる名称をもつ出世魚として知られ、市場ではサイズにより、ワカシ → イナダ → ワラサ → ブリと呼び名が変わる。

【漁法と盛期】

茨城県では主に定置網や曳釣などで漁獲され、主な漁期は春季と秋季である。

【利用】

刺身、煮物（ブリ大根、煮付け）、焼き物（塩焼き、照り焼き）などで賞味される。EPA、DHA、ビタミンB群、ビタミンDなど健康に良い栄養成分が多く含まれている。

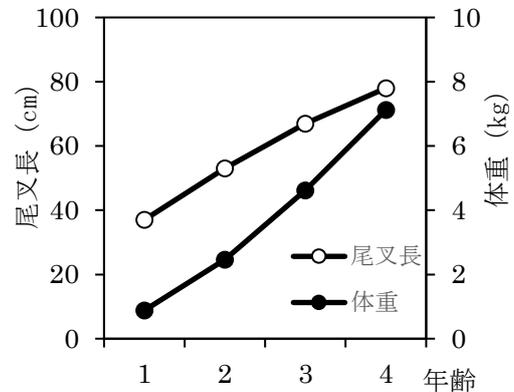


図1 ブリの年齢と成長（太平洋北部）
（令和5年度ブリ資源評価より引用）

資源水準は中位、動向は横ばい傾向

（漁獲量）全国の漁獲量は、H6～H21年は穏やかな増加傾向であったが、H22年以降急増し、近年は10万トン前後が漁獲されている（図2）。県内漁港における漁獲量は、回遊状況に影響されることから年によって変動があり、近年では概ね35～240トン前後で推移している。R4年は35トンの漁獲があった（図3）。

（水準と動向）国の資源評価（R5年度）によると、資源水準は「限界管理基準値を上回るが、目標管理基準値を下回る」、資源動向は「横ばい」とされている。

水準



動向

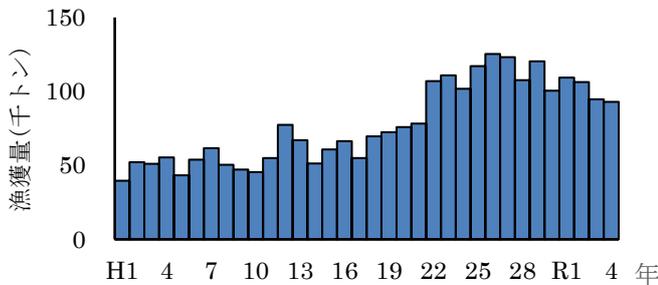
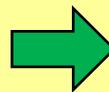


図2 全国のブリ漁獲量（水産資源研究所集計）

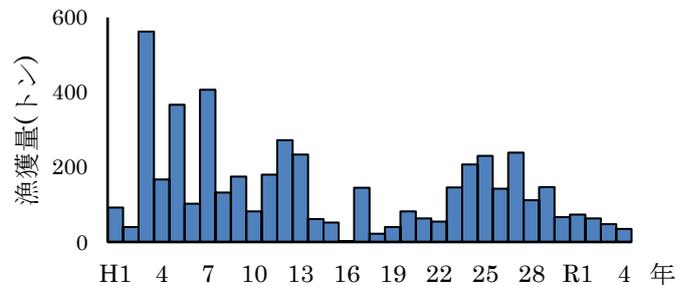


図3 茨城県のブリ漁獲量（水試システム、全漁法、属地）

【全国の漁獲動向】

- ・長崎県が漁獲量1位、2位は北海道、3位は千葉県。（R4農統）

評価期間：令和4年1月～令和4年12月 更新日：令和6年3月27日